

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町 (小町)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=2170102848-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念である「自然の恵みを受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さを適度に保ち、食事を適切に管理することにより、利用者様の生きる力を引き出し、心身の活性化につなげることを遵守すること。そして利用者様のありのままを受け入れ、最後までその人らしい人生を送ることができるように援助し、安らかな死をご家族様に見守られながら迎えられるように、職員一同尊厳と誠意をもって、利用者様とともに暮らしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近隣には、住宅も増えてきたが、山や田畑も見え、利用者は住み慣れた地域で、自然を感じながら、穏やかな生活を送っている。隣接の「小町農園」では、ネギやゴーヤを栽培し、職員と利用者が一緒に成長を楽しみながら、皆で収穫した新鮮な野菜等を、毎日の食事にも利用している。事業所で開催する恒例の夏祭りには、住民や子ども達を大勢招き、利用者も一緒にゲームや食事を楽しみ、交流している。管理者は、経験豊かな看護師であり、職員の育成にも熱意を持って取り組みながら、全職員と共に、利用者が最期まで、その人らしい人生が送れるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、自然豊かな地域の中で利用者様の思いを受け止め、利用者様が自分らしく暮らしていくことができるように管理者の指導のもと支援している。	理念の意義は、全職員に浸透しており、管理者と職員は、利用者が恵まれた自然環境と、住み慣れた地域の中で、その人らしい暮らしが継続できるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は地域自治会員であり、地域の防災訓練や掃除等に参加し、文化祭にはホームで作成した作品を出展したり、当事業所の夏祭りに近所の方を招き明るい開かれた施設づくりを目指している。	管理者は、自治会員として、地域の「いきいきサロン」で、主体的な役割を担っている。また、福祉村主催のイベントに参加したり、ホームの夏祭りには、地域住民を招いている。福祉の困りごと相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験やボランティア活動を受け入れたり、地域のサロンに参加し、ホームで行っているリハビリ体操やレクリエーション等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況や、ホームでの様子、行事をお知らせするとともに、意見交換を行っている。その際の出た意見や要望等を職員全員で共有し、より良いサービスが提供できるように日々努力している。	運営推進会議では、運営状況と共に、イベントの企画や開催後の反省点などを報告している。また、運営上の諸問題や災害時の対応などについて、意見を交わし、それらをサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で市の担当者に助言指導をして頂いている。地域包括支援の方には、困難事例や退居後の生活等を相談している。	市の担当者には、運営推進会議の場で運営の実情を伝えている。長期利用者の経済的な負担の課題など、困難事例も相談している。地域包括支援センターとも良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については施設内研修をしており、身体拘束による弊害を職員は理解し、利用者の状態に応じた福祉用具を使用し、安全に配慮した支援を行っている。	身体拘束の弊害については、管理者および職員が十分に理解し、拘束ゼロの方針でケアに取り組んでいる。安全上、必要であっても、福祉用具を活用し、見守りながら、拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導のもと、虐待の防止や早期発見に気づき、入浴時の身体状況や、小さなけがなど職員同士連絡を密にし、見過ごすことのないように防止している。また、職員同士の親睦を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。成年後見制度を利用されている方もあり、またご家族様から相談をされることもあるので資料等を参考にアドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用者様や家族様の不安や疑問に丁寧にお答えし、書面をもって説明をしている。また、ホーム内の雰囲気や生活の様子、職員の態度等も見いただき信頼関係を築くように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の訪問時に意見をうかがえるように、気軽に話しかけられる雰囲気を大切に、また、毎月のホーム便りで日々の生活をお知らせしている。家族様から出た意見は職員で話し合う機会を随時設けている。	職員は、家族が意見や要望を言いやすいよう、雰囲気づくりに努めている。毎月送るホーム便りについて、家族から、感謝の気持ちや要望などが届いている。意見や要望には、適切に対処をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員とコミュニケーションを取るよう努めている。毎月の会議や日常においても職員からの提案や要望・意見を聞き運営に反映させている。	管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを取りながら、意見を交わし、課題の解決につなげている。勤務調整や職場環境の改善に加え、職員のメンタルサポートにも取り組んでいる。	職員のワークライフバランスに配慮して、メンタルサポートの充実を継続し、さらに働く意欲の向上につながるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に職務の担当があり、責任ややりがいに繋げている。勤務日に関しては、個人の希望を考慮し家庭と両立できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の際には、個人の能力等を考慮し参加させている。また、そのための休暇や費用等を補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や各会議等を介して知り合った、他施設の方の見学や意見交流ができるように便宜を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生やサービス利用に至るまでの経緯を理解し、本人や家族様の思いを受け止め寄り添いながら、安心して生活が送れる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いを受け止め、不安や要望等を気兼ねなく話していただけるような雰囲気づくりをしている。また、入居初期には、利用者様の様子を電話等でお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様の実情、要望を見極め、他のサービス利用も視野に入れて、安心・納得した上で可能な限り援助していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する・される」という関係ではなく、ともに過ごし、学び、支えあう関係を築き、喜怒哀楽をともにし一緒に生活をしている家族として、安心した生活を送ることができるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いを受け止め、本人と家族様の絆を深め、職員とともに協力し合える関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの人や友人たちが疎遠になってしまうことがなく、気楽に面会にこられるような声掛けを行い、「また来てください」と、関係が継続できるように働きかけている。また、手紙や電話も活用している。	知人・友人、息子などの訪問が継続している。また、ホームを退職した職員が訪れるなど、利用者との再会の機会もある。近所の人々が気軽にホームに訪れたり、散歩の行き帰りに、馴染みの人と会うことも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や他者との関係を把握し、孤立やトラブルを防ぐようにしている。また、利用者様同士の助け合いに、見守りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も時候の挨拶のはがきを送るなど良好な関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分らしく暮らし続けるために、本人の話をよく聞き思いや希望を理解するように努めている。また、職員でその思いを実現するにはどうしたらいいかを話し合い、思いに近づけるように話し合っている。	その人の生活歴に加え、日常の会話にも耳を傾け、思いを把握している。困難な人は、問いかけながら反応を読み取り、出来るだけ、本人の思いや意向に近づけるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活史を作成することにより、今までの暮らしを理解し、その人らしい毎日が遅れるように常に寄り添いながら、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別に介護記録を作成し、健康状態や行動記録を記載するとともに、適切な支援を提供することができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がそれぞれの担当利用者様の情報を把握し、サービス担当者会議及びケースカンファレンスで全職員で検討共有している。また、医師や家族様の意見を取り入れ、介護計画に反映させている。	サービス担当者会議を開催し、介護記録を基に、家族や関係者の意見を加えて検討を行い、介護計画を作成している。また、利用者の体調を整えながら、安心して、穏やかに暮らせるような計画作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来ごとや気が付いたこと、健康状態などを個別記録に記入している。ケアの実践や本人の状態の変化を職員で共有し、今後のケアに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の心身の状況、または、その時々ニーズに合わせて臨機応変にサービスを提供できるように取り組んでいる。また、重度化、終末期や看取りを医療との連携において実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や、ボランティアの方の協力のもと、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように事業所全体で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族様の意向に沿って個人別に選択していただいている。医療機関の受診に際しては看護師が同伴し、家族様と一緒に説明を受け医療情報を共有している。	かかりつけ医は、個々に選択している。協力医の往診体制もあり、受診や救急搬送の際には、看護師が同行し、家族と現地で合流している。個別の医療情報カードを備え、安心な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤しているので、利用者様の健康状態を常に観察をしている。また、介護職員からの情報に迅速に対応し異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、看護師が必ず付き添い病院関係者に情報提供をしている。入院中も、現在の状態を病院スタッフに聞きながら、主治医、家族様、事業所、かかりつけ医との連携により早期退院に向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族様の意向に沿えるように、状態の変化に応じ医師や家族様と話し合い、最後までその人らしく穏やかに暮らせるように援助している。主治医・看護師介護職員が24時間体制で連携し、家族様の協力を得て、終末期ケアに取り組んでいる。	重度化や終末期について、本人・家族に説明し、支援体制を整えている。重度化に伴い、主治医と家族とが段階的に話し合い、方針を共有している。家族の大半が、最期までホームでと望んでおり、事業所は医療機関と連携しながら、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成しており、緊急時に適切な行動ができるように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には自治会長様に参加いただき訓練を行っている。大規模災害時の避難場所や安否確認の方法を、家族様に伝えるとともに、協力医や協力薬局と連携し災害時に混乱しないよう整えている。	災害の種別に応じた訓練や、大規模災害、夜間を想定した訓練等を行っている。訓練には、自治会長の参加も得て、薬については、かかりつけ薬局と連携し、対応を依頼している。食料と防災用品も確保し、職員の防災意識の強化に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活習慣や価値観を尊重しながら自尊心を傷つけないように対応するように心がけている。また、意思の疎通が困難な方であっても、表情やしぐさからできるだけ読みとるように努め、寄り添いながら支援するように努めている。	利用者への言葉かけは、視線を合わせ、分かりやすく、短く、優しく語りかけている。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、ありのままの人柄を受け入れ、家族の思いも汲みながら、支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、利用者様が十分に意思表示ができない場合であっても、表情や全身での反応を注意深くキャッチし本人の意図として理解できるように努めている。主体性を持つことができるように常に選択肢をもってかかわっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の毎日の生活リズムを大切にしながら、可能な限り柔軟な支援ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好み等を尊重しながら、季節や場所にあったおしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや嚥下状態を把握し、個々にあった食形態で提供している。また畑で一緒に収穫した野菜や種取や皮むきを行ってもらったものを調理して、感謝や喜びをもって会話を楽しみながら、食事ができている。	食事は、利用者の好みや体調、嚥下能力に合わせて調理し、提供している。利用者も食材の準備や片づけなど、進んで関わっている。職員は、見守りと介助を行いながら、利用者と同じ物を食べ、完食の喜びを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足がないように普段から一人一人の好みや習慣、食事の様子を把握し、体調や体重の増減を観察し、その人にあった食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持ができるように、最後の仕上げを行っている。また、歯科メンテナンスを行っていただくことで、職員に日々のメンテの方法を教授してもらいトラブルを防いでいる。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握し、一人一人に合った排泄方法やオムツ等を選択し、必要な介助を見極め、自立に向け努力している。	個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレへ誘導し、自立につなげている。夜間は、自立度に応じて、こまめに声かけと誘導を行い、おむつ用品は、その人の状態に合ったものを選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無や量を確認し、記録している。また、排便パターンを観察し、適度な運動や、食材を考慮し自然排せつを促す方法を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決まっているが、健康状態等を考慮しながら柔軟に対応している。身体状況に合わせ、リフト浴を行っている。	入浴は、利用者の心身の状態に応じて、柔軟に対応している。重度者用のリフトも備えている。一人ひとりの入浴習慣や好みに合わせ、安楽な入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムやその時々状況に応じて、休息したり、安心して眠ることができるように、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量等について理解し、薬の飲み忘れや誤薬を防ぐために、その都度名前や日にちを確認し、服薬確認を怠らないようにしている。また、状態変化にも十分留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、カーテンを開ける、テーブルを拭くなどその人に合った役割を持つことにより、生きがいをもって暮らせるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出かけ、季節感を味わうことができるように支援している。また、テラスや庭に出ておやつを食べたり、日光浴をしている。家族様と一緒に食事や買い物にでかけられる方もある。	日常的に、テラスで外気に触れている。また、周辺を散歩しながら、近隣の神社に詣でたり、恒例行事としては、季節の花見に出かけている。家族と一緒に、買い物や外食に出かける人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者様には家族様の了解のもと自己管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が自由に電話や手紙を出せるように支援している。希望に応じ電話を掛けたり取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームの理念である通り、五感を刺激し快適な生活空間が保てるように配慮している。また、皆で作成した季節感あふれる作品を展示している。	共用の間は広く、ゆとりがあり、適度に換気を行って清潔感がある。利用者の手づくり作品が飾られ、ちょっとした作品展のようである。随所に、季節の花や観葉植物を飾り、大型テレビの前のソファで、ゆっくりと居心地良く、快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格や生活パターンを理解し、お互いにストレスを感じることがないように、それぞれがお気に入りの場所や気の合ったもの同士のくつろげる場所を作り、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具、思い出の品や写真を持ってきていただき、安心して暮らせるように、家族様と相談しながら、自由に使っただけいでいる。	居室には、利用者が使い慣れた家具や、思い出の品を持ち込んでいる。また、見当識障害を考慮した、見やすいカレンダーを掲示している。季節の花や家族の写真を飾り、落ち着いて暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能の状態に合わせて、できるだけ自立して行えるように工夫している。家庭的な雰囲気大切にすることで安全、安楽に暮らせるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町 (式部)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念に掲げ、自然環境に目込まれた地域の中で、利用者様のありのままを受け止め、思いに寄り添えるケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際田んぼや畑に出ている近所の方と挨拶や立話をしている。ベランダ越しに登下校中の生徒さんとあいさつをすることを楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験やボランティア活動を受け入れたり、地域のサロンに参加し、ホームで行っているリハビリ体操やレクリエーション等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況や、ホームでの様子、行事をお知らせするとともに、意見交換を行っている。その際の出た意見や要望等を職員全員で共有し、より良いサービスが提供できるように日々努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で市の担当者に助言指導をして頂いている。地域包括支援の方には、困難事例や退居後の生活等を相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に施錠しておらず自由に庭に出ることができる。そのために庭の草引や掃除などを行っている利用者様もいる。身体拘束による弊害は理解しているので、安全安楽に留意し、常に見守り寄り添う介護を心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導のもと、虐待の防止や早期発見に気づき、入浴時の身体状況や、小さなけがなど職員同士連絡を密にし、見過ごすことのないように防止している。また、職員同士の親睦を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。成年後見制度を利用されている方もあり、またご家族様から相談をされることもあるので資料等を参考にアドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用者様や家族様の不安や疑問に丁寧に答えし、書面をもって説明をしている。また、ホーム内の雰囲気や生活の様子、職員の態度等も見えていただき信頼関係を築くように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の訪問が比較的多いので、訪問時にはお茶を出してくつろげる場所を提供しその際に、意見や要望を聞くようにしている。その際に聞いたことを職員で検討しより良いサービスに反映できるように努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はほぼ毎日出勤しており現場でも一緒に介護をしているので、職員の意見や要望を共有する場面が多くある。管理者も一職員としてより良い施設づくりに努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に職務の担当があり、責任ややりがいに繋げている。勤務日に関しては、個人の希望を考慮し家庭と両立できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の際には、個人の能力等を考慮し参加させている。また、そのための休暇や費用等を補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や各会議等を介して知り合った、他施設の方の見学や意見交流ができるように便宜を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生やサービス利用に至るまでの経緯を理解し、本人や家族様の思いを受け止め寄り添いながら、安心して生活が送れる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いを受け止め、不安や要望等を気兼ねなく話していただけるような雰囲気づくりをしている。また、入居初期には、利用者様の様子を電話等でお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様の実情、要望を見極め、他のサービス利用も視野に入れて、安心・納得した上で可能な限り援助していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する・される」という関係ではなく、ともに過ごし、学び、支えあう関係を築き、喜怒哀楽をともにし一緒に生活をしている家族として、安心した生活を送ることができるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いを受け止め、本人と家族様の絆を深め、職員とともに協力し合える関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの馴染みの美容院や行きつけの喫茶店、そこでの馴染みの友達との交流が途絶えることなく家族様の協力のもとできる限り続けられるように支援していきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や他者との関係を把握し、孤立やトラブルを防ぐようにしている。また、利用者様同士の助け合いに、見守りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も時候の挨拶のはがきを送るなど良好な関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者様の一举一動に興味をもって接することを心がけ、コミュニケーションをとりながら、その思いを知るように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活史を作成することにより、今までの暮らしを理解し、その人らしい毎日が遅れるように常に寄り添いながら、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別に介護記録を作成し、健康状態や行動記録を記載するとともに、適切な支援を提供することができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の際に、利用者様についての気づきや家族様の要望を話し合い、介護計画に沿った統一したケアの提供により、利用者様に安全で、安心した生活を送っていただけるように努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来ごとや気が付いたこと、健康状態などを個別記録に記入している。ケアの実践や本人の状態の変化を職員で共有し、今後のケアに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の心身の状況、または、その時々々のニーズに合わせて臨機応変にサービスを提供できるように取り組んでいる。また、重度化、終末期や看取りを医療との連携において実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や、ボランティアの方の協力のもと、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように事業所全体で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族様の意向に沿って個人別に選択していただいている。医療機関の受診に際しては看護師が同伴し、家族様と一緒に説明を受け医療情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤しているので、利用者様の健康状態を常に観察をしている。また、介護職員からの情報に迅速に対応し異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、看護師が必ず付き添い病院関係者に情報提供をしている。入院中も、現在の状態を病院スタッフに聞きながら、主治医、家族様、事業所、かかりつけ医との連携により早期退院に向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族様の意向に沿えるように、状態の変化に応じ医師や家族様と話し合い、最後までその人らし穏やかに暮らせるように援助している。主治医・看護師介護職員が24時間体制で連携し、家族様の協力を得て、終末期ケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成しており、緊急時に適切な行動ができるように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には自治会長様に参加いただき訓練を行っている。大規模災害時の避難場所や安否確認の方法を、家族様に伝えるとともに、協力医や協力薬局と連携し災害時に混乱しないで済むように整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や価値観を尊重し、自尊心をきづつけない言葉かけや態度に配慮し、その人に合ったテンポで威圧的にならないような対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、利用者様が十分に意思表示ができない場合であっても、表情や全身での反応を注意深くキャッチし本人の意図として理解できるように努めている。主体性を持つことができるように常に選択肢をもってかかわっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の毎日の生活リズムを大切にしながら、可能な限り柔軟な支援ができるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好み等を尊重しながら、季節や場所にあったおしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や行事に合わせた献立を作成し、誕生日には本人の食べたいものを提供している。メニュー会議の際にも、利用者様の意見も聞いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足がないように普段から一人一人の好みや習慣、食事の様子を把握し、体調や体重の増減を観察し、その人にあった食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持ができるように、最後の仕上げを行っている。また、歯科メンテナンスを行っていただくことで、職員に日々のメンテナンスの方法を教授してもらいトラブルを防いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握し、一人一人に合った排泄方法やオムツ等を選択し、必要な介助を見極め、自立に向け努力している。また、失敗しても傷つけない声掛けをし、次につながられるように励ましている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無や量を確認し、記録している。また、排便パターンを観察し、適度な運動や、食材を考慮し自然排せつを促す方法を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全介助の方が多く安全な入浴に常に気を配っている。リフト浴を取り入れたため、より快適な入浴ができるようになったと思う。着替えの服は本人と一緒に選ぶようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムやその時々状況に応じて、休息したり、安心して眠ることができるように、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量等について理解し、薬の飲み忘れや誤薬を防ぐために、その都度名前や日にちを確認し、服薬確認を怠らないようにしている。また、状態変化にも十分留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、カーテンを開ける、テーブルを拭くなどその人に合った役割を持つことにより、生きがいをもって暮らせるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出かけ、季節感を味わうことができるように支援している。また、テラスや庭に出ておやつを食べたり、日光浴をしている。家族様と一緒に食事や買い物にでかけられる方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者様には家族様の了解のもと自己管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が自由に電話や手紙を出せるように支援している。希望に応じ電話を掛けたり取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の環境は当施設の理念の実践にかかわることなので特に気を配っている。太陽の明るさや車や子供たちの声、鳥のさえずり、稲のにおいや花の香などの中で、穏やかに暮らせられるように環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格や生活パターンを理解し、お互いにストレスを感じることがないように、それぞれがお気に入りの場所や気の合ったもの同士のくつろげる場所を作り、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の大切にしてきたものや、家族様からの思いがいっぱい詰まった写真などが多くあり、ホームにいても家族の一員であると、安心して過ごせるようにチェストの上に飾ってある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体機能に合わせて、行動しやすい動線を確認できるように配慮している。		